

会 議 録

会 議 の 名 称	平成29年度第3回弘前市子ども・子育て会議
開 催 年 月 日	平成30年 2月15日 (木)
開 始 ・ 終 了 時 刻	14時00分 から 16時00分まで
開 催 場 所	ヒロロ 4階 市民文化交流館ホール
議 長 等 の 氏 名	佐藤 三三
出 席 者	<ul style="list-style-type: none"> ・佐藤 三三 会長 ・黒滝 明人 副会長 ・藤田 俊彦 委員 ・鈴木 鉦一朗 委員 ・井澤 優子 委員 ・笹森 麻野 委員 ・加藤 知明 委員 ・山田谷 幸一 委員 ・相馬 玲子 委員 ・竹村 陽華 委員 ・中村 ゆき 委員
欠 席 者	<ul style="list-style-type: none"> ・健康福祉部長 赤石 仁 委員 ・教育部長 野呂 忠久 委員
事 務 局 職 員 の 職 氏 名	<ul style="list-style-type: none"> ・健康福祉部理事 須郷 雅憲 ・子育て支援課長 菅野 昌子 ・子育て支援課長補佐 石澤 容子 ・子育て支援課長補佐 間山 博樹 ・主幹兼児童育成係長 山崎 宏 ・児童育成係主査 佐藤 洋佑 ・児童育成係主事 榊 玲美 ・児童育成係主事 舘田 彩香 外
会 議 の 議 題	<p>(1) 弘前市子ども・子育て支援事業計画の変更承認について</p> <p>(2) 平成29年度 待機児童の状況等について</p> <p>(3) 平成30年度 特定教育・保育施設利用申込み状況等について</p>
会 議 結 果	事務局案で委員の了承を得る。
会 議 資 料 の 名 称	<p>資料 1-1 弘前市子ども・子育て支援事業計画（平成27年度～平成31年度）中間年の見直しについて</p> <p>資料 1-2 弘前市子ども・子育て支援事業計画（平成30年2月【改訂】）案</p> <p>資料 2-1 平成29年度 待機児童の状況等について</p> <p>資料 2-2 平成29年度 待機・保留児童数内訳</p> <p>資料 3-1 平成30年度 特定教育・保育施設利用申込み状況等一覧表</p> <p>資料 3-2 施設整備による利用定員変更状況一覧表</p>

<p>会議内容</p> <p>(発言者、 発言内容、 審議経過、 結論等)</p>	<p>1. 開会 2. 案件 3. その他 4. 閉会</p> <p>≪ 1. 開会 ≫</p> <p>【司会】 「平成29年度第3回弘前市子ども・子育て会議」を開会いたします。</p> <p>本日も出席の委員は11名で、欠席は2名となっておりますが、委員の半数以上が出席されておりますので、会議成立とさせていただきます。</p> <p>≪ 2. 案件 ≫</p> <p>○ 案件（1）弘前市子ども・子育て支援事業計画の変更承認について</p> <p>【議長】 案件（1）について、事務局からご説明をお願いします。</p> <p>【事務局】 (資料1-1～1-2に沿って説明)</p> <p>【議長】 前回会議で変更点等に対し委員の皆様からご意見を伺い、その結果に基づき変更したものを資料1-2という形で提示していただきました。</p> <p>この件について、改めてご質問・ご意見等ありましたらお願いします。</p> <p>(質問・意見等なし)</p> <p>それでは、この変更案については承認ということで進めたいと思います。</p>
---	---

○案件（２）平成２９年度 待機児童の状況等について

【議長】

次に案件（２）について、事務局からご説明をお願いします。

【事務局】

（資料２－１～２－２に沿って説明）

【議長】

この件について、ご質問・ご意見等ありましたらお願いします。

【委員】

資料２－１（３）「保護者への情報提供」について。

市HP等で公表している施設の最新の空き状況は、市窓口でも教えていただけるのか。

【事務局】

もちろん、窓口においても情報提供している。

【委員】

一時預かり保育を利用する際、市窓口で、施設によっては予約でいっぱいの場合もあると案内はしてもらったが、では、どこなら使えるのかと聞いても、直接施設に聞いてくださいと言われる。結局自分で一つひとつ調べなければならない。子どもが生まれたばかりや多子などで育児が大変な家庭にとっては、とても負担で、特に他県から来た人は知り合いも少なく周りからの情報も得にくい。前回会議でも話したが、例えばどういう施設を探しているのか、その家庭がどういう状況なのかなどを酌んでもっと寄り添った対応をしてほしい。

【事務局】

一時預かり事業は、通常は保育できている家庭が、緊急の場合等に臨時的に預かってほしいというニーズに応える事業となっており、日々、空き状況が変化する。これまでも意見を頂戴しているところではあるが、現実、やはり都度各施設に状況を確認する必要がある。

利用者支援の部分に関して、例えば、保護者の立場により近いコンシェルジュなどが間に入ってコーディネートするよう

な新たな事業の仕組みも今後は考えていかなければと思うが、現時点では、職員が窓口等において、もう一步進んだ寄り添った対応を心掛けていきたい。頂いた意見を保護者の気持ちとして大事に受け止めたい。

【議長】

一時預かりについては、実施施設の空き状況を把握するのは難しいと。

【事務局】

やはり日々変化するので把握はなかなか難しい。

【委員】

例えば、ここの施設は1ヶ月前に予約しないとっばいとかそういった情報は持っていると思うので、教えてくれるだけでも前向きな意識を持てる。その中で、住所や希望地域など聞き取りながら対応してもらえれば、寄り添ってくれていると感じ、またいろいろな相談もしやすくなる。何を助けて欲しいのか聞き出してほしいと思う。

【委員】

自身の園でも一時預かりの利用について問い合わせを受けるが、やはり状況によっては受け入れができず、心苦しいがお断りすることがある。

ただ、例えば、施設に直接連絡して断られた後で市の窓口相談があった場合等、こういうところを当たってみてはどうか等の話があるべきだと思う。市内でも全ての施設が定員オーバーしている訳ではないので、柔軟に対応できる施設もあるはず。こういった情報は市HP上ではもちろん確認できないため、直接、窓口や電話で対応する形となるが、こういう相談への対応は、ぜひ何とかしてほしい。

【委員】

市役所窓口での対応のほか、施設側への問い合わせに対する言葉掛けも大事である。一時預かりを受け入れできないにしても、無理ですといきなり言われると保護者のショックも大きい。施設としても受け入れられないことを真摯に受け止めながら、丁寧な対応を心掛けてやっている。

【委員】

組織として、コンシェルジュのような、誤解のないように理解を得られる言葉を届けられる方の存在が必要ではないか。

窓口で保育所の入所希望を出して入れなかった家庭に対し、行政からその後どうしているか電話一本入れてほしいと話している。でも、日々の業務の中で難しいのであれば、そういったことを行う部署を作って、行政との懸け橋になる存在に位置付けるのがいいのではないか。

【委員】

資料2-2「平成29年度 待機・保留児童数内訳」について。

事由について、「定員オーバー」が圧倒的に多いが、次いで「保育士不足」が11月の割合で待機児童30%、保留児童25%と出ている。

そういった中での今後の対策として、保育士等の離職防止の部分で、業務効率化を図るICT化の導入があり、自身の園でも導入し、大変効率化が図られている。

ただし、保育士の負担軽減を考えた時に、実際の状況やどういった部分が負担になって離職に繋がっているのかを、アンケートなどでもう少し実態調査し、把握していくことが必要ではないかと考える。

また、養成校との連携について、やはり継続的に行っていないといけないと思う。毎年県外に多くの資格取得者が流出している。弘前の子どもたちを資格を取って育てていこうという志を持てるような連携の取り方や、きちんと仕事をしていける職場環境づくりを強化していく方向で検討してほしい。

【委員】

資料2-2「平成29年度 待機・保留児童数内訳」について。

事由の「保育士不足」の部分について、2月時点で比べると、全体との比率が前年度は41%だったのに対し、今回は施設による入所制限と合わせて30%と減ってはいる。人数でも減っている。施設整備については、定員アップが図られ、来年度以降に効果が反映されることとなるが、待機児童解消策などの効果が表れているのだと思う。

しかし、実際に待機・保留児童全体の人数は、前年度と比べ20人多くなっており、職員や受け皿は増やしているが、それ

以上にニーズも高くなっているとも読み取れる。

こういった中で、企業主導型保育施設などこれから増えてくると思われるため、その辺も把握し情報提供していただきたい。

もうひとつ。子ども・子育て支援法の改正案の中で、「待機児童対策協議会」という、広域で協議をして利用調整する機関を設ける案が出されているが、もし弘前市が協議会に入った場合、待機・保留児童の状況は良くなるのか、悪くなるのか。その辺も説明してほしい。

【事務局】

保育士確保の部分でも、各施設においていろいろと取り組まれ、ご協力いただいていることが数字に表れていると考える。

子どもの人数は増えている訳ではないが、保育のニーズは今のところ横ばいで推移している。これから先の計画策定の際は、しっかりと見極めながら進めていきたいと考えている。

企業主導型保育施設については、現在、弘前市では2か所開設している。4月には地域枠で50人規模の施設の開設も予定されている。開設済みの施設については、既に利用定員の空き状況を市HPで毎月情報提供している。今後も保護者の方にはいろいろな情報が入り次第、提供していきたいと考えている。

広域利用については、今も他市町村と協議しながら進めている。「待機児童対策協議会」についての詳細なものはまだ届いていないが、明確になり次第検討したい。

ただ、近隣市町村も、年度後半になるにつれて利用定員が埋まっていくので、津軽地域としてどんな効果があるのかはまだ分からない状況である。

【議長】

案件（2）の問題については、現状について、お互いの共通認識ができればと思っております。

○案件（3）平成30年度 特定教育・保育施設利用申込み状況等について

【議長】

案件（3）について、事務局からご説明をお願いします。

【事務局】

(資料3-1～3-2に沿って説明)

【議長】

この件について、ご質問・ご意見等ありましたらお願いします。

【議長】

平成30年度は、平成29年度に比べ、利用可能人数が何人増えるのか。

【事務局】

各年度の4月1日現在で比較し、全体で125人増えている。また、今後も施設整備等を進めていく予定だが、地域によってニーズにばらつきがあるため、そのニーズを踏まえ計画的に進めていきたいと考えている。

【議長】

こういう状況であるということで、皆様から何かご意見等ございますか。

(質問・意見等なし)

【議長】

案件については全て終了しました。

これで今年度の子ども・子育て会議も終わりになるかと思いますので、今回の案件等も踏まえながら、子ども・子育てに関連してご感想などいただければと思います。

【委員】

小学生の放課後の過ごし方について。

なかよし会などで、一つの教室に別の学年の子が何十人も入って過ごしているのがかわいそうに思う。3年生くらいになると、なかよし会もつまらないと言う子ども出てくる。それぞれの子どもたちに、広い空間で充実した時間を過ごさせてあげられればと思う。

【委員】

この子ども・子育て会議の意義は、「子どもの最善の利益が

実現される社会を目指す」となっている。それには保護者の負担を軽減することも大きく関わってくるのではないかと思う。待機児童の解消も大事なことで進めていってもらいたいが、もっと大きな視点でいろいろなことをこの会議で取り上げてもらいたい。社会全体で子育てできる弘前市であってほしい。

【委員】

小学校も新入学児童を迎えるに当たって、子どもたちが安心して小学校生活を送れるよう、幼稚園や保育園などとの連携に努めている。打ち合わせの席でも、保育士さんの負担や苦勞など聞こえてきており、大変だろうと感じる。

そういうことで考えると、人材の量的な部分を確保する手立てや、質の向上の部分で、子どもたちを上手く支援してあげる専門知識を持つための研修などを充実させていくことが必要ではないかと思う。

先ほどコンシェルジュの話もあったが、今、小・中学校の連携の部分では、今まで以上に地域の教育力を活かしながら進めていくこととしている。そのために、学校と地域を結ぶ方を探しながら進めているが、なかなか難しいところもある。

こういった会議の場でいろいろな情報を交換しながら、子どもたちのために、それぞれの立場で何ができるかを考えていかなければならないと思う。

【委員】

この会議に参加して、子育てに関するいろいろな現状や市の取り組みを知り、とても勉強になった。弘前市の掲げる「子どもたちの笑顔あふれるまち」を目指し、自分が担っている分も一生懸命やりながら、また、子育ての部分も皆さんと知恵を出し合って、より良い弘前になっていければと思う。

【委員】

幼稚園では、預かり保育の実施などいろいろ工夫や努力をしているが、右肩下がりで入園児童の数が減ってきている。

待機児童が生じているが、保育園さんにお任せするのではなく、幼稚園もあることをお伝えし、また、子育て支援に関しては、やはり幼稚園、保育園、小学校、中学校とみんなで手を繋いで情報交換しながら進めていかなければならないと思う。

【委員】

待機児童に関して、幼稚園での一時預かり事業の実施についても検討してはいるが、部屋や職員体制等もあり頭を悩ませている。また、放課後関係についても、卒園を控える保護者から、学校から学童保育までの距離的な問題などいろいろと話を聞く。なんとかしなければとの思いではいるが大きなことも言えず心苦しく思う。

特別な支援を必要とする児童の入園等に関して連絡をいただいた際には、柔軟に対応するなど、できる限り寄り添った対応を心掛けている。

【委員】

自分の中で基本的に子育てに何が一番大事を考えたとき、社会もそうだが、やはり親だと思う。

児童センターやなかよし会の利用時間が非常に長いと感じるので、保護者の仕事の都合などもあるとは思いますが、できれば少しでも長く子どもに寄り添って会話や触れ合う時間を作ることが、子育てには一番大事なことだと考える。

また、施設と保護者の間でも、言葉が足りない場面が多くなっている。ちょっとした言葉の行き違いで印象が変わってしまうので、勉強していかなければならないと思う。

【事務局】

この子ども・子育て会議が始まってすぐに、弘前市の待機児童の数が3桁になったことや、待機児童が全国的にも問題視されていることもあり、その部分がメインとなり、これまでいろいろとご意見を頂戴しながら進めてきた。

今後は、国が子ども・子育て支援事業として定める13の事業のほか、市の事業に関してもいろいろなご意見を頂戴しながら取り組んで参りたいと考えている。

【議長】

皆様、ありがとうございました。

≪ 3. その他 ≫

【司会】

次第3「その他」について、皆様からご発言はございますか。

	<p>(発言等なし)</p> <p>それでは、今回の会議をもって「平成29年度弘前市子ども・子育て会議」は終了となります。 最後に事務局からご挨拶申し上げます。</p> <p>【事務局】 (挨拶、委員任期及び次期委員推薦について案内)</p> <p>≪ 4. 閉会 ≫</p> <p>【司会】 以上を持ちまして、「平成29年度第3回弘前市子ども・子育て会議」を閉会いたします。</p>
その他必要事項	会議は公開